

方を持っていただきたいと思うんですけど、市長は福祉に優しいしまづくりをモットーにしてありますから、それをよろしくお願いします。どう思われますか。最後に答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この件につきましては、前回は答弁しておりますとおり、今度の次期計画の中で検討すべきというようなことで進めていきたいと思っております。

今、議員おっしゃられるように、その施設のほうはどうしても不足ということで、事業者の皆様がそこに自分たちもやろうということであれば、そこは計画に盛り込むことは可能だというふうに思っております。そういうことで進めてまいります。

○議員（7番 入江 有紀君） 終わります。

○議長（初村 久藏君） これで、入江有紀君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩とします。再開は1時10分からとします。

午後0時06分休憩

午後1時08分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 皆さん、こんにちは。11番議員、対政会の小島徳重でございます。最近、一般質問のトップ争いが激しくて、熱意にはじき出されて私は3番目の登壇になりました。午後になりますと気が緩みがちになりますけども、気持ちを引き締めて質問に入りたいと思います。

それでは、通告に従い3項目お尋ねいたします。

1項目め、学童クラブけいめいの充実についてお尋ねします。

3月の定例会一般質問で、雞知地区の学童クラブけいめいの施設・設備は、現在のままでは不十分であり、国の新・放課後子ども総合プランの通知に基づき、鶏鳴小学校内で学童クラブを運営すべきではないかとお尋ねしたところ、教育委員会及び事業所との協議が必要である。スピードアップして協議を進めるとの答弁でした。その後の取扱い進捗状況についてお尋ねをいたします。

2項目めは、あそうベイパーク内の玄海つつじの森を猪、鹿の害から保護するための方策をとっていただきたいということでお尋ねをします。

あそうベイパーク内には、市民団体玄海つつじの森つくろう会によって2万8,010本のゲンカイツツジの苗木が植栽されています。また、自生から生育したコバノミツバツツジも

2,000本ほど生育し、現在、合わせて3万本ほどのツツジの森が形成されつつあります。

会の長郷美比古代表をはじめとする島内外80名の会員の皆さんの献身的なお世話により、開花時期には見事な景観を楽しむことができ、対馬の観光名所として知られるようになってきました。

比田勝市長は市長選出馬にあたり、公約として豊かな島づくり5つの拡大戦略を掲げられ、具体的な政策の1番目は交流人口の拡大を上げられました。その中で、ゲンカイツツジの植栽を進めてきたあそうベイパークは、今後、観光客を呼び込めるツツジ公園として整備充実してまいりますと述べられました。

市長は公約実現のため、毎年ゲンカイツツジ苗木代金を予算化され、玄海つつじの森つくり会の活動をバックアップされています。また、令和3年度には作元議員の提案を受け、尾根伝いの散策道路整備も実現され、ツツジ公園づくりが進められています。

しかし、近年、あそうベイパーク内も猪、鹿の害が目立つようになり、苗木が荒らされ、土壌も崩壊し、ツツジの順調な生育が困難になっています。実生から数年間育てた苗木を1本1本植え付け、年に何回もつるを取り払い、雑草を刈り、生育を見守っています。やっと花をつけるまでに生育したツツジが一日、一夜にして猪、鹿から荒らされ、無残な姿になっているツツジがかなりあります。猪、鹿の被害に無性に腹が立つわけです。玄海つつじの森を持続させ、活用するためには、玄海つつじの森つくり会の要望を踏まえ、公的な支援による猪、鹿対策が必要です。

昨日、補正予算第3号であそうベイパークへの誘客促進を図るため、あそうベイパーク整備計画策定業務のための予算案が上程されました。計画の中に猪、鹿防護対策を組み込んでいただく必要があります。市長の見解を伺います。

3項目め、万関橋からの転落防止策についてお尋ねします。

万関橋からの転落者、投身者が後を絶ちません。先月も転落、投身事故があったと聞き及んでいます。万関橋からの転落・投身防止について、私は平成28年9月定例会において対策が必要であると一般質問しました。

当時の財部市長は、万関橋からの自殺については深く憂慮しており、今後、関係機関と協議していきたいと答弁されました。その後、関係機関においてどのような対応がなされたのかお尋ねします。

今回の転落を受け、再度、転落防止策を道路管理者、関係機関に強く要望、協議すべきではないかと考えます。市長の見解を伺います。

以上3項目、簡潔明瞭な御答弁をお願いをいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 小島議員の質問にお答えいたします。

初めに、学童クラブけいめいの充実についてでございますが、3月定例会一般質問の回答といたしまして、雞知地区の学童クラブけいめいの待機児童解消に向けて学校施設の活用が可能かどうか含め、協議を進めることと答弁しておりました。

当学童クラブの現在の利用状況につきましては、6月1日現在、利用者数は定員数と同じ49名であり、3名の方が待機となっております。3月定例会後、事業所施設長を訪問し、待機者数等の状況及び今後の方向性について聞き取りをした後、施設状況の確認を実施しております。

また、鶏鳴小学校へ訪問し、校内における余裕教室の確認及び御提案いただきました旧給食施設、現多目的ホールの現状確認を、校長及び教頭の立会いのもと実施しております。

現況といたしまして、鶏鳴小学校内に余裕教室はなく、多目的ホールは運動場と反対側に位置し監視困難であるため、運営面において支援員の増員が必要と認識しております。また、多目的ホールは有効性及び利用度が高いため、学校側の意見としては学童クラブへの移行は困難であります。しかしながら、学童を利用する児童にとって移動の必要がないことは安全面においてメリットがあることは認識しております。

一方、学童クラブは国の運営基準を満たした上で高齢者コミュニティセンターの一部を活用して開設及び運営を行っていますが、待機児童の発生及び昨今のコロナ禍の状況を鑑みますと施設拡充の必要性はございます。

このような現状を当該施設長も認識されており、有効な物件を探索される中で、今回、高齢者コミュニティセンターの未使用となっている別棟の使用について要望書の提出がっております。可能な限り利用者のニーズに応えられるよう、事業者の希望施設の使用にあたっては慎重かつ迅速に審議を行いたいと考えております。

次に、2点目のあそいパーク内の玄海つつじの森についてお答えします。

玄海つつじの森づくりにつきましては、平成15年度から19年度にかけて花の愛好団体、花の対馬ネットワークグループとのタイアップによる玄海つつじ・椿育成地整備事業を実施し、その後、花の島づくり七人衆、玄海つつじの森つくろう会をはじめとした多くのボランティアの御協力によりまして、現在までに約2万8,000本のゲンカイツツジが植樹、育成され、本市における重要な観光資源の1つとなっております。これまでの対馬の自然を愛する方々の熱心な御活動により、すばらしい観光名所が形成されておりますことに対しまして、こころより感謝申し上げます。

一方、このような山林の生態系にも影響を及ぼす猪、鹿の駆除対策につきましては、本市の最重要課題の1つでございます。農地等への侵入を防ぐための防護柵設置への補助、わな、銃による捕獲に対する支援や、山間部での一斉捕獲などの実施により捕獲頭数は年々増加しておりますが、その被害については一向になくならないのが現状でございます。

あそうベイパーク内におきましても、猪による掘り起こしや鹿による食害などで、せっかくのゲンカイツツジの育成が阻害されている状況であることは認識いたしております。

あそうベイパークは、玄海つつじの森のほか多目的広場、キャンプ場、シーカヤック、桜並木、対州馬放牧場等、多種多様な施設を有する公園であり、地理的にも対馬の中央に位置し、市民の憩いの場としてはもちろんのこと、観光客を呼び込める公園として捉えております。

しかしながら、管理棟、キャンプ場などの施設は当初整備から30年近くが経過しており、特に管理棟につきましてもは全面改修が必要なほど老朽化が進んでおります。そのため、今議会におきまして、その更新などにかかる整備計画を策定するための業務委託料を計上いたしております。

整備方針としましては、園内におけるアウトドア、対州馬、自然体験等の魅力あるコンテンツを活かした施設整備による誘客の促進を考えております。

玄海つつじの森は重要な観光資源の1つでございますので、その育成、保全のため有害鳥獣防護柵につきましても、公的な支援を含めボランティアの皆様の御協力を得ながら、設置する内容等をこの計画に盛り込んでいければというふうに考えております。

次に、3点目の万関橋からの転落防止策についてでございますが、万関橋からの転落者については関係機関に確認したところ、平成13年1月1日から令和4年5月30日までの21年間に6件発生しており、深く憂慮しているところでございます。

万関橋への転落防止対策については、平成28年3月の議会において同様の質問を受けており、再度、万関橋を管理する県へ聞き取りを行ったところ、ネット等を設置するなどの転落防止対策の事業がなく、現時点で改修の計画はないとの回答を受けておりますが、今後も粘り強く協議を進めてまいりたいと考えております。

私自身も振興局長のほうにも直接電話をいたしましてお願いをしておりますけれども、県といたしましても道路管理者であり観光地でもありますので、どんな対策がよいのか今後、関係機関と協議を進めていくというような回答をいただいているところでございます。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 御答弁ありがとうございました。質問の順番は違いますが、まず、あそうベイパークのツツジの公園関係についてから確認、詰めをしていきたいと思っております。

一応タブレットにも出していたんですけども、今、市長お答えいただいたように、大変、玄海つつじの森つくろう会の皆さんをはじめとする方々の努力によって見事な公園ができつつあるんです。その過程を少し説明をしたいと思っておりますが、これはいわゆるツツジの種を集めて実生、いわゆる種から発生させてる分です。

これ種類によって若干違うそうですけども、3年なり5年なりかかってやっと植えつけという

のが今この写真ですね、これ見えますかね。これ育つために竹の柵で目印をして、そして刈り取るときに、つるを取るときとかあるいは雑草を刈るときに苗木を切らないためにこういう柵をして、ずっとこういうふうに保護してあります。これもやっぱり同じように保護していている場面です。そして、それが数年後このような育ち方をするわけですね。このことについては、これは本当、手間暇かかって育てていただいているということでもあります。

そして、それが数年したらこのように見事な花を咲かせています。これは、私が撮った写真ではあまり焦点が合っていないでちょっとピンボケしてるところもありますけども、花がこんなに見事に咲いてるというのはお分かりいただけだと思います。これはタブレットには出していませんでした。間に合いませんでした。

これが、こう一角、全体の写真なっていますが、この中には白く花も咲く、これは何か変異体として白い花もあらわれるということですから、こういう見栄えがするということですね。こういうことで皆さんが楽しんでいただいているということです。

ところが、先ほど質問の中で述べたようにこれ、こんなに順調にいつて全部うまくいつてるかというところではないということを次の写真で示したいと思います。この写真見ていただいたら分かるように、一番分かりやすいのがこの枯れているツツジですね。

これは、結構もう生育した立派なツツジの木ですけども、なぜこんな状態になったのかというのは私も説明を聞きながら、ああそうかと思ったんですが、鹿が芽を摘む、いわゆる食べるですね。あるいは猪が下を荒らすから、土壌が栄養分や水分を保てなくなるからこういう状態になると。

ここまでいくまでの間には、この写真見ていただいたら分かりますが、これは木全体が枯れる前にまず上のほうから枯れてる状態をこの写真が表しています。そして、一番極端になったらもうこんなに枯れてしまって、もうこんなみじめな状態になります。

これはなぜかというところを見ていただいたら分かりますが、これ獣道ですね、猪なり鹿なりが通って荒らしてしまっているからもうこの木は枯れてしまった、これも枯れています。同じようなことが、獣道がここをこう通っています。これは公園のオートキャンプ場のところから行った浜側の道路のところですが、こういうところから猪が登っていくわけですね。こういう状況です。

こういう状況を見ていただいた上で、市長も把握された上で防護柵を作ろうということの、防護柵なりネットなりいろんな方法があると思うんです。このことについては、また専門的な知見を持った方へボランティア活動されてる方々の御意見を聞いていただければいいかと思います。それで、多分、今までここで作業された方々、御安心、今日の答弁でされるんじゃないかと思いません。

それで、この区域どれだけの区域をどうするかということについては、これ、あそうベイパーク全体の写真を美津島の行政サービスセンターからいただきましたけども、ツツジが植えこまれているのはこの先端部に近いここまでのこの谷の部分ですね。この部分にだんだん植え込まれているんですが、そこをどこまで保護するかとか、そのあたりも現地でやはり活動してある方々の御意見を十分に参考にさせていただければと思うんですが、ここでひとつ確認をしたいんですが、私も会員の一人であるんですけどね、あまりその作業には毎回行くわけじゃないんですけども、熱心に活動してある方の話を聞くと、まずゲンカイツツジを今2万8,000本植えた、そしてコバノミツバツツジは自生しているやつが多くて2,000本と。残りがチョウセンヤマツツジですね。これを公園内に移植をしていきたいということを聞いています。そうすると、なおさら保護する地域というのをかなり広くとっていただく必要がありますので、そのあたりについてはまた御検討いただきしたいと思います。

3種類のツツジがそろると、3月上旬のゲンカイツツジから始まって4月のコバノミツバツツジが入って、チョウセンヤマツツジは5月中、下旬まで花をつけるそうですから、約2か月間の公園が完成することになるんですけど、そうすると市長がおっしゃっている観光地としての価値も高まるわけですが、市長その話はどういうふうに思われますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このゲンカイツツジとかコバノミツバツツジ、これは本土地区では見かけられない、または高山のほうに行かなくてはなかなか見れないということでございます。

それをここ対馬でゲンカイツツジ、コバノミツバツツジ、そしてチョウセンヤマツツジ、時系列的に時を追って見れる公園がここに整備されるということは、対馬の観光産業にとっても有意義なことではないかというふうに考えております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） ありがとうございます。確かに今、市長おっしゃったように、一時的な半月とか程度の期間だったら訪れる人の数も限られて、その機会に恵まれない人も出るんですけどもね。約3か月近くのツツジの公園化というのができれば、これこそツツジ公園と名乗っていいかと思います。そこで、今日はツツジ公園登るところで話を止めるのではなくて、その先まで市長の御意見を伺いたいと思うんですよ。

これは、平成29年の3回目の9月議会で、前職に在職された長郷議員さんがあそうベイパーク内に昆虫園とか植物園とかを造ったらどうかというときの話をされました。そんなとき答弁されたことを市長、御記憶ございますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） いや、申し訳ございませんがはっきりした記憶はございません。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 多分、市長も御多忙だからそうと思ひまして、一応私もそのときの議事録を拾ってみました。こういうふうにご答弁なさっております。

「活動の成果を島内外に発信し、研究者や保護活動団体にとどまっている保全活動を市民の皆様にも広く知っていただき、地域に広げていくことを求めてまいります」と。これは市民も一体となつていという内容です。「今後も対馬の植物を観光資源として活用する方向性は、対馬市にとりましても非常に有意義なことだというふうに……」というまとめをされました。

それで、私が今日言ひたいのは、ツツジ公園からさらに一歩進んで対馬の貴重な植物類を、このあそびパーク内の保護する地域の中に植栽、植えたりという考え方はお持ちじゃないか。

特に、ほかの地域で繁殖しているものでそこでしか繁殖しない、いわゆる域内で生育しなけりゃいけないものは別として、移動しても可能な植物があるんですよ。市長、多分そのあたりは勉強してあると思ひますから、あそびパーク内にほかのところから持ち込んで観光資源として活用できそうな植物というものがあるか、ちょっと市長お考えをお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 資料としてもいただいておりますけれども、まず市民の皆様が特に自然的に接しておられますこのハクウンキスゲですね、これは特に豆殿崎とか海辺の崖ぶちにかなりよく自生をしているハクウンキスゲでありますけれども、このようなハクウンキスゲをはじめとして対馬独自のオウゴンオニユリとか、そしてまたツシマアカショウマという対馬のみに分布する固有種がここにも自生をしているということでございますけれども、できればこういった種類等がある一定のエリア等に集めて育てることができれば、これもまた観光客を呼び寄せる材料等になるかというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） ありがとうございます。市長がそこまでおっしゃっていただきましたのでね、大変心強い御答弁をいただいたと思っております。

それで、一応私もこういう保護活動してある方から、あそびパークの中に移植して、植栽して広げてく植物の可能性のあるものとして、玄海つつじの森つくろう会の代表の長郷さんからいただいた資料では60種類ぐらい上げてあります。もちろんその中には、今言つたツツジ類、オウゴンオニユリ、それから今言われたもの、それからガマズミ類では対馬だけしか日本ではないオオチョウジガマズミ、これも絶滅の危機に瀕しているそうです。だから、そのあたりのところも十分踏まえていただきながら検討していただきたいと思ひます。

これは自然共生課のいわゆる植物の保護にかかわっております神宮さんからいただいた資料には、もう具体的に幾つか上げてくださっています、これは、ここで申し上げるとちょっと支障が

ある部分もあるんで言葉では表しませんが、市長の手元には資料届いていますのでぜひそれを心の中で広げていただいて、市民が、あるいは観光客があそびパークに行けば、季節を問わず自然が楽しめるというスタンスをとっていただければと思います。いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この一番懸念されるのが国定公園内ということで、自然公園内での許可等がちょっと懸念される場所ではありますけども、できる限りのこういった、対馬に特色のある植物公園としてもこのような形で進めていければいいなというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） なぜこのことを、公園内に植物園化していこうということを申し上げてるかという、私このことを少しボランティア活動してある方々に聞きましたらこんな本を紹介されました。日本の絶滅危惧植物図鑑というのがあるんだそうです。この中見ましたら、対馬だけにしかないもの、日本では対馬だけのもの、世界中でも対馬だけのものとかここに取り上げてあります。

その中で、対馬のいわゆる植生の状態を見て、この本の中に対馬だけ10ページ以上特集がしてありまして、これは対馬のある地区の山林の状態、全く下草がない状態になっていて、そしてその専門の、これは京都の府立植物園に勤めてある先生の紹介なんですけど、このままでは対馬の貴重な植物が途絶えてしまうということで、ほかのところのページには日本全国で絶滅危惧取り上げてありますけど、地域取り上げてあるのは対馬だけです。対馬だけで10ページの特集が組んであります。

だから、そういうことはやっぱり対馬の植物は貴重なものであってそして保護すべきだということですから、ぜひツツジ公園から植物園へのステップということを踏んでいただきたいということを要望します。

そして、この活動をする上で、今活動に携わってる方々は多くは高齢者です。それでやはり後継者を育てないと、あと30年50年、あるいは公園化していってすると100年、そうなったときに後継者という点で若い人たちにも関心を持っていただきたい。その中で貴重な存在が豊玉高校の皆さんですね、これ毎年この活動に加わっていただいております。

ぜひこういう方々にも意義を分かってもらって、そして卒業後も活動に加わっていただくような支援というかPRを市のほうでぜひしていただきたいと思います。このことについては、市長いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かにこのような活動につきましては高齢者の方が多く見受けられるということで、これで終わってしまうのではないかなというような危惧もされる場所でもあります。

ので、このような本当に貴重な活動がいつまでも続くように若い方たち、ここでは豊玉高校の卒業生の記念碑が打ち込んでありますけども、このような形で例えばほかの高校にしても若い方たちが自主的にボランティア活動等に参加していただくように、できれば呼びかけていきたいなと思います。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 今のことを受けまして、教育委員会のほうにもお話を少しさせていただきたいと思うんですが、中島教育長が就任されましておめでとうございます。また新しい視点でぜひ教育行政頑張っていたいただきたいなと思います。

今回、もう私、教育委員会関係は質問出しておりませんが、今、市長おっしゃったように若い人へのやはり啓発といいますか、そういう意味では高校生が活動加わっております。中学生やあるいは小学生も、校外学習の一環としてぜひあそびパークにも目を向けていただく。昨日ちょっと出ましたけど馬もそこで飼われている、動植物に関心持っていただくという意味では、ぜひ小中学校の校外学習でも目を向けていただくように教育委員会のほうでもお願いをしておきたいというふうに思っています。

それから3番目のほうにいきます。万関橋の件です。

万関橋の件は、県のほうとしては補修の計画なしというようなことで言われましたけども、市長は粘り強く県のほうにあたるということをおっしゃいました。今のまましとくと、また3年なり4年なりに1回のそういう繰り返しなんです。これは亡くなった方以外にも、助かった人もいますから数はまだこれ増えるんですよ。

それで、万関橋の状況についてはお話を私、前のときも写真つけてしまったけど、今回そんなにたくさん予算かけないでも思いとどまらせるような方策として、万関橋構造を見てください。

これ両サイド、これは東海岸側です。これ西海岸側です。欄干の外は鉄骨がこう出ていますよね。普通の場所から飛んだらこれに当たりそうで、あまり人飛ばないで心理的に。飛ぶとしたらどこかといったら、突出しているこの展望所ですよ。今回の、先月のやつもこの突端のところからじゃないかなと思います。ここにキープアウトのテープが張ってありましたから。

それで、長崎県の中でも西海橋等は前も言いましたけど防護柵がしてあるんですよ。歩道のところは2メートルぐらいの高いネットが張ってあります。それから、下のほうにもネットが張り出してあります。景観とかいうことをおっしゃります。それ分かりますけど、この部分のところには張り出した部分に横にネット張れば効果あると思うんです。

そして、長崎県は、対馬市は人命尊重でここにこういう施策をしいてるんだなあ、ある意味では景観を損なうとか何とか以上に人命を大事にしてるといふ、そういうメッセージにもなると思

うんですが、市長いいがですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私も答弁のほうでも答えましたとおり、振興局長のほうにもちょっと電話で相談いたしました。振興局長のほうも決してこれをうやむやにするとかそういうことじゃなくて、ただ、今の現状ですぐには難しいけども観光地でもありますし、そういったことでまずどのようなことが有効的なのか、どのような対策ができるのか、そこら辺の関係機関とも協議を進めながら、何とかできる体制を考えていきたいというようなことでございますので、私たちも一緒になってどうすればより効果的な対策ができるのかを考えていきたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） こういう言葉がありましたよね、人命は地球より重いという言葉、かつてこれは福田元総理大臣だったですよ、言われましたよあのハイジャック事件のときに。

それと同じように、やはり1の方が亡くなるということはその家族とか地域の方とかいろんな人たちが悲しみにあるんですよ。それを予算上のこととか景観という言葉で進めるべきではなくて、やはり対馬市としては誰も岩の上には飛びません。多分、水面があるから飛ぶわけだね。それもさっき言ったように、ここが目に見えてるところのこんなところからは、多分これに引っかけたらって飛ばないと思うんですよ。だから、方策はあると思いますのでぜひこのことは市長にも再度頑張ってくださいなと。

そうしないと地元だけじゃない、この前も保安部が出動する、警察が出動する、そしてときには地元の人たちにも協力を仰いで出動するんですよ。そして、事が起こるとやはりイメージ的に気持ち悪いんです、ぜひそのことはしっかり把握していただきたいと思っております。

それから3番目にいきます。3番目の学童の件については、このことにはちょっと私、少し失望といいますかねしております。何に失望しとるかという、やはり行政の執行というかスピードアップが必要だというふうに感じていますよ。

この前3月に一般質問させていただいた後、私、福祉保険部のほうにかけ合いました何回かね、ここに記録していますので読み上げますよ。3月4日に一般質問をしました。1週間後といいますが3月9日に課長、それから担当の方と面談しました。

そして、年度末だけでも事を早く進められないかと、はみ出てる人がいるんだからと言いました。そしてどうなってるかなと思って3月17日にまた課長に会いました。そんときのお話が、まだ動いてないというお話でした。これ質問をしてから2週間後ですよ。

そして、次3月22日には、こんときは多分、人事が発令がされてたと思いますが、前部長に会いました。そのとき、明日事業者と会うと、このとき初めて事業者と会うという動きが出てき

ましたよ。3週間たってですよ。

それでも、前進見えなかったから私3月31日に前課長に電話しました。あなたたちはまだ具体的に見えたことを示してないがどうするのかと言って、そしてこうなった以上は次の後任者にきちっと引継ぎをしてくださいという確認をしました。そしたら確実に引き継ぐと。そして学校とも相談が必要という言葉でした。するとは言ってない、必要と言われました。

そして、新年度なって私も年度明けて行政忙しいだろうと思ったから、遠慮して4月18日に現在の部長、課長さんとお会いしました。そして話を聞きましたところ、まだ具体化してないということでしたね部長さんね。

そして、私もちょっと体調が優れなかったこともあるから、1か月後の5月18日に再度また部長、課長と会って一応話を聞いたら、今、市長答弁されたようなことでした。私、3月議会にやっぱり取り上げたのは、できれば年度変わったときに何らか対応してほしいなと思う気持ちだったんですよ。そのことについていかがですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大変この進捗が遅れていることにつきましては申し訳ないというふう
に思っております。

そういうことで、これも先ほど答弁いたしましたように、現在の使っているコミュニティ施設のほうを拡大する意味でも早目に、その審議会等も開催いたしまして事業準備を、進捗を進めるように指示はしております。

それと、実は私もこの5月の中旬でしたか、九州市長会が福岡県の飯塚市のほうで開催されたんですけども、この飯塚市の市長さんが元学校の校長先生から教育長、そして市長ということで、飯塚市は学童保育等の体制がかなり進んでおります。

そういうところで、その市長さんが書かれている本もいただきましたので、それもちよっと私も読んだ後で、まずこども未来課長のほうにもまず読んでもらって、それから今度、今、教育委員会のほうにもこれ読んでみてくれということで渡しております。

そういう形でできる限り、これはもう言葉だけで本当申し訳ないですけどスピードアップしてまいりたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 市長からそういうほかのところからの情報も入りましたということをおっしゃいましたので、再度お願いしたいのが、昨日は部長にもお伝えしとったんですけど新・放課後子ども総合プランですね、このことをしっかり捉えていただきたいと。このことを捉えたら、学校を最大限に活用してくださいよということが書いてあるんですよ。

部長は多分、目を通されたと思います。7ページの(1)に書いてありますよね。そのことを、7の(1)のところに書いてありますが、このことを見て部長どう思われましたか。

○議長(初村 久藏君) 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長(國分 幸和君) 議員が今おっしゃられました7ページの(1)学校施設を活用した放課後児童クラブ及び放課後子供教室の実施促進ということでよろしいでしょうか。

この国が示しております新・放課後子ども総合プランですけども、今、私がこの7ページの(1)の目標等がありますけれども、これらはあくまでも国の助言でありまして、実施可能な取組について地域の実情に応じて柔軟に対応するものと私は認識しております。

○議長(初村 久藏君) 11番、小島徳重君。

○議員(11番 小島 徳重君) これ前も申し上げたんですけど、毎回念押ししますよ。「学校は、放課後も児童が校外に移動せずに安全に過ごせる場所であり、同じ学校に通う児童の健やかな成長のために学校関係者と両事業の関係者とが、実施主体に関わらず立場を越えて放課後児童対策について連携して取り組む」と書いて、その後ですよ、「学校教育に支障が生じない限り余裕教室や放課後等に一時的に使われてない特別教室等も徹底的に活用を促進」しなさいというふうに書いてあります。

だから、余裕教室がなくてもあれから、先ほど多目的ホールは活動に使いますと言ったけど、子供たちが下校する時間、学校教育活動が終わった後は多目的ホールは使っていないはずなんですね。

鷄鳴小学校、3月までの校長先生は、学校活動には支障はないというふうな、私に対応されたときにはおっしゃいました。それで、今の校長さんに替わられたら支障があるという言い方ですね。

そして、学校はするとしたとき一番問題になるのが管理主体、いわゆる誰が責任持つかというところですね。これ教育委員会のほうによく把握していただきたいんですけど、これも同じく7ページのところに書いて、7ページの学校施設の活用にあたっての責任体制の明確化、ここ書いてあります。教育委員会は今日、資料お持ちですか子ども総合プランの。ないでしょう、読み上げますよ。

「学校教育の一環として位置付けられるものではないことから、実施主体は学校ではなく市町村の教育委員会、福祉部局等となり、これらが責任を持って管理運営に当たる」ということです。つまり学校の校長さんや教頭さんに責任持たさせるなということですね。

教育委員会なり事業所に委託した今の雑知の学童クラブけいめいの場合だったら、事業主体、指定管理受けた業者あるいは福祉部局が責任持って学校の施設を管理して活用しなさいとこうなってます。

だから、もうこのことは今日は指摘するだけにして、どこに移すかは別にして、拡充するかは別にして、市長さっき御答弁いただいたようにやはり少しでも早い時期から子供たちが余裕持って、スペースがあって、そして安全なところで実施できるようにしていただくことを市長のさっきの答弁で私は確約されたものと思いますので、今日の質問はこれで終わりたいと思います。

以上です。

○議長（初村 久藏君） これで、小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は2時10分からといたします。

午後1時58分休憩

午後2時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 14番議員の小宮教義でございます。今日はラストバッターということで、皆さん、眠いでしょうけども、50分、よろしく願いをいたします。

私もこの一般質問を2回連続でさぼってしまいました。最近テレビで、広島県の安芸高田市ですか。その議会で議員の活動について市長さんでしょうか、誰か分かりませんが、「恥を知れ、恥を」と。とんでもない言葉が出ております。恥を知れ、恥を。私も恥に（「言われんように」と呼ぶ者あり）言われぬように、島居議員の言うとおりに、恥じないように議会の活動をさせていただきたいと思います。

久しぶりに登壇しますと、市民の声を今までいただいていたので、市民の声を2名ほど。今回は、6,000万円横領です、横領。この分について市長さんのほうに厳しい市民の声が届いておりますので、よくお聞き取りをいただきたいと思います。

まず、1人目が、「市長さん、対馬でもすごいことが起きてしまいました。市の職員が何と6,000万円横領ですよ。本当にびっくり仰天をしました。こんなことが本当にあるんですね。びっくりです」ということ。「私の給料の30年分です。これを僅か半年でギャンブルで使ってしまったそうですが、すごいですね」と。「事件から既に3か月以上がたちますが、何も動きもないようですが、毎日のようにテレビ報道されている山口県阿武町は、間違っって振り込んでしまった4,630万円は犯人はすぐに逮捕され、ほぼ全額戻ってきたようですが、対馬の6,000万円はいつ戻ってくるのでしょうか、市長さん」と。「このまま終わってしまうのですか。6,000万円ですよ。何というていたらくでしょうか」という意見をいただいております。

そして、おふたりめでございますが、このように言っておられます。「横領された6,000万